



問い合わせ先
第一管区海上保安本部

(海氷に関すること)

海洋情報部監理課長 坂本平治
Tel 0134-27-0118 (内線2510)

(海難に関すること)

交通部安全対策課長 植田聖純
Tel 0134-27-0118 (内線2640)

海氷情報提供サービス今季も140万アクセス突破 ～海氷海難件数はこの20年で半減～

今季、サハリン沿岸からの海氷南下は平年並み、北海道沿岸への海氷到来は、平年並みから1～2週間程度遅い状況でした。2月下旬から3月上旬に最大勢力となり、根室海峡及び国後水道から太平洋側へ海氷の流出が一部ありました。

今季は2月18日に紋別港沖で海氷に起因する海難の発生がありました。3月中旬以降、海氷は勢力を弱め、3月下旬以降、北海道沿岸からは観測されなくなりました。webで提供している海洋速報へのアクセスは10年連続140万件以上となりました。

第一管区海上保安本部では、オホーツク海など海氷が発生する海域を航行する船舶の海難事故を防止するため、昨年12月20日から海氷情報センターを開設して、海氷情報を収集・分析し、海氷速報、航行警報、AIS(船舶自動識別装置)、海の安全情報により、迅速な情報提供を行っています。

今季の海氷状況及び海氷に起因する海難発生状況は以下のとおりです。

1 今季の海氷状況

(1) 今季の海氷状況は、資料1のとおり以下の特徴がありました。

- 【1月】・サハリン沿岸からの海氷の南下は平年並みで、サハリン南端(北緯46度付近)を越えたのは1月3日であった。
 - ・1月下旬以降、海氷は南下しつつ分布範囲を広げ、1月30日に網走海上保安署における定点観測で流氷初日を観測した。
- 【2月】・2月6日には稚内海上保安部で流氷初日を観測、2月中旬以降、海氷は根室海峡へ流入し2月19日には羅臼海上保安署で流氷初日を観測、同日には根室海上保安部も流氷初日を観測した。以降、海氷はゆっくりと発達し分布範囲を広げた。
- 【3月】・3月上旬、海氷は今季の最大勢力となった。サロマ湖以北の海氷は沖合に離れ沿岸からは観測されなくなった。
 - ・3月中旬～下旬、海氷は一部太平洋に流出したがそれほど南下せず、知床半島周辺以外は沿岸から離れ始めた。
 - ・紋別、根室、羅臼、網走で平年より5日～31日早い流氷終日を観測した。
- 【4月】・4月上旬以降、海氷は勢力を弱め、北海道沿岸から離れていった。

- ・ 4月22日現在、海氷は網走沖約180km（北緯45度40分）まで北上している。

(2) 海上保安部署・分室で実施した海氷※1(流氷※2、結氷※3)目視観測の結果は資料2のとおりでした。

※1 海氷：海で見られる全ての氷

※2 流氷：漂流している氷

※3 結氷：港内や海岸の海水が凍結してできた氷

2 海氷速報へのwebアクセス件数、海氷に起因する海難の発生状況

webページへのアクセス件数は前年より減少したものの、10年連続140万件を超えている。(資料3参照)

2月18日に紋別沖でタンザニア籍貨物船が海氷に船尾部が衝突して操舵不能となる海難の発生がありました。海氷に起因する海難は、昨年3月に羅臼沖で漁船8隻が海氷に閉じ込められる集団海難に続き、2年連続での発生となります。(資料3参照)

今季の海水分布状況 (12月~2月)

凡例

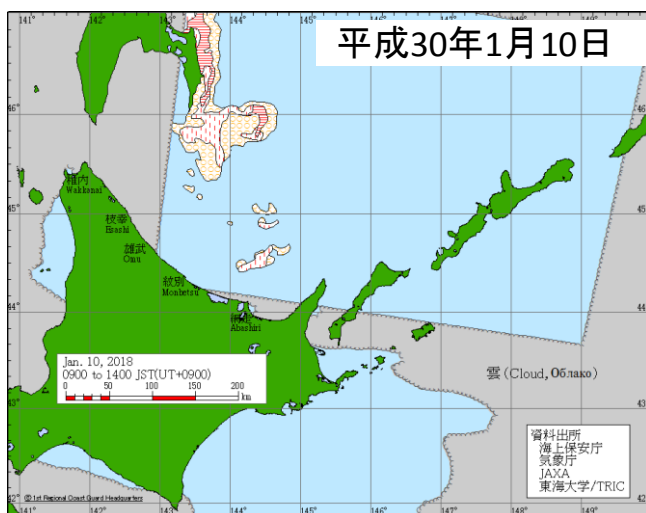
1-3 4-6 7-8 9-10 雲

数字は密集度

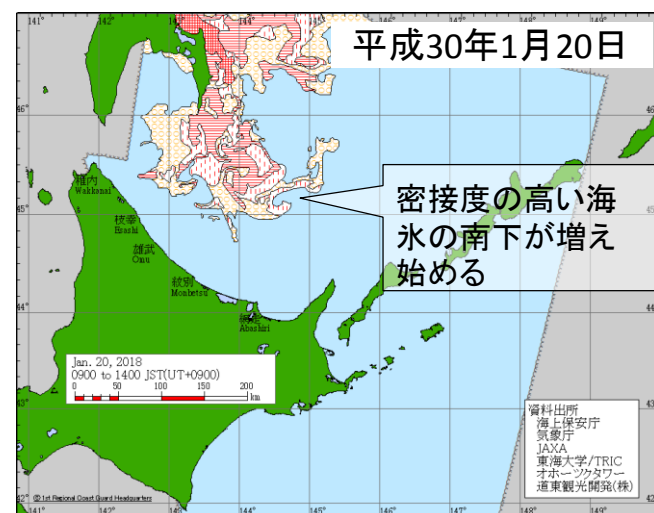
密集度: ある水域の氷の分布状況がバラバラになっているか、つまっているか、その平均の密集程度を10分位法で表したものを。



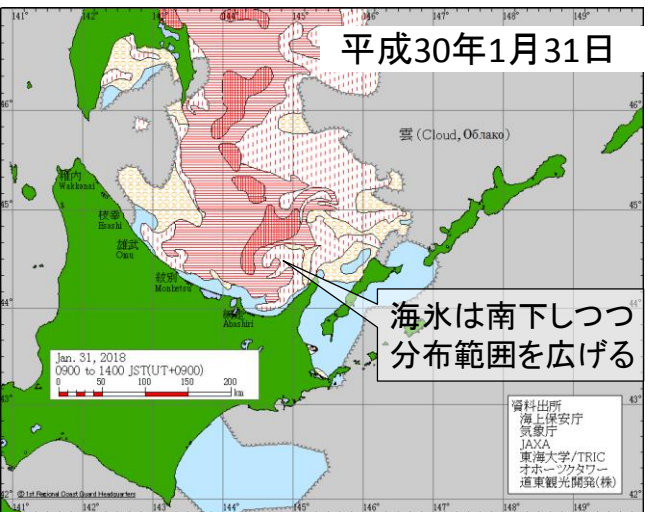
・今季の海水情報提供開始は概ね平年通り (平年:1月4日)



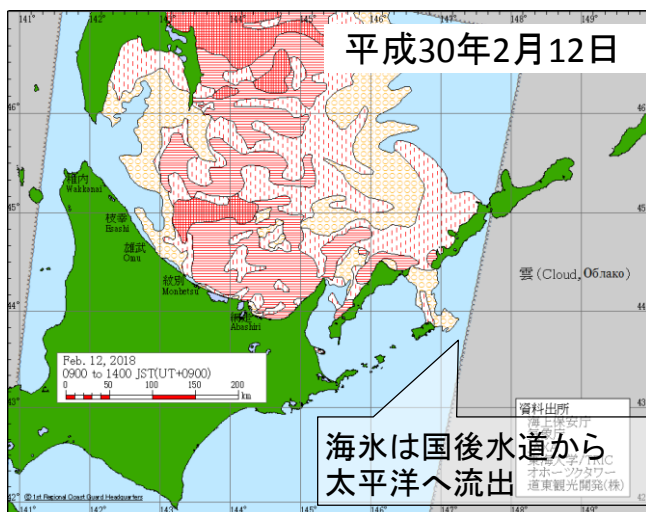
・1月10日までは南下が早かったが、この後鈍化する



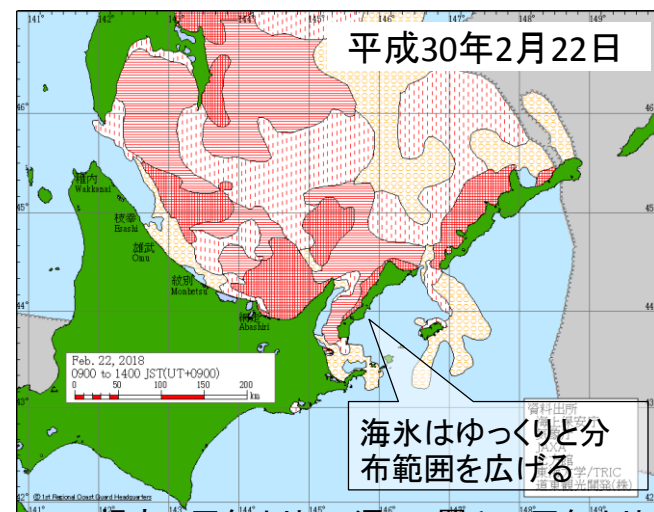
・この頃からサハリン東岸の海水の密集度が
高く、南下しつつ面積も広がってきている



・1/31、網走で平年より6日遅い流氷初日を観測
・2/1、紋別で平年より4日遅い流氷初日を観測



・2/6、稚内で平年より8日早い流氷初日を観測



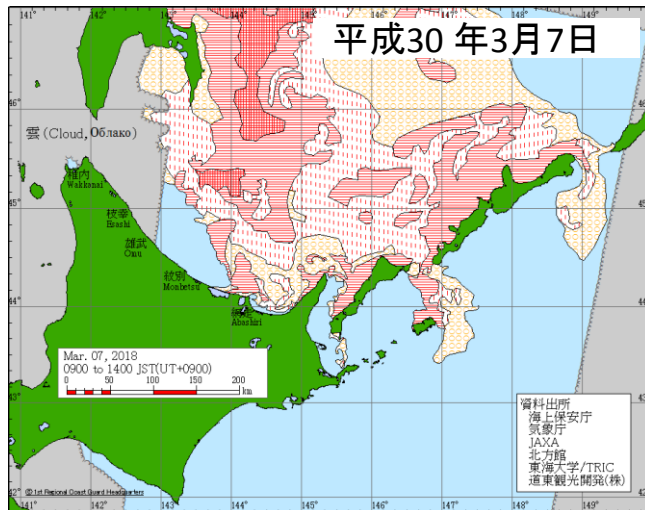
・2/19、根室で平年より6日遅い、羅臼で平年より12日遅い流氷初日を観測
・2/23、根室で平年より30日早い流氷終日を観測

今季の海水分布状況 (3月~4月下旬)

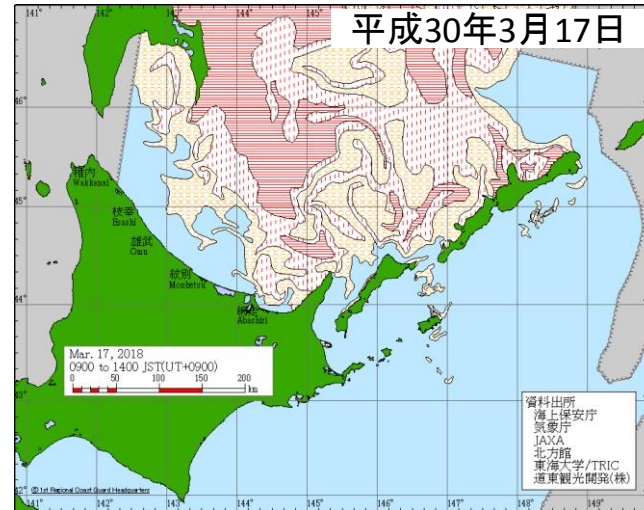
凡例

数字は密集度

密集度: ある水域の水の分布状況がバラバラになっているか、つまっているか、その平均の密集程度を10分位法で表したものを。



平成30年3月7日



平成30年3月17日



平成30年3月27日

- ・依然として、太平洋側へ海水流出が続く
- ・2/26、紋別で平年より31日早い流水終日を観測

- ・少ないながら太平洋側への流出が続く
- ・サロマ湖以北では海水が衰退

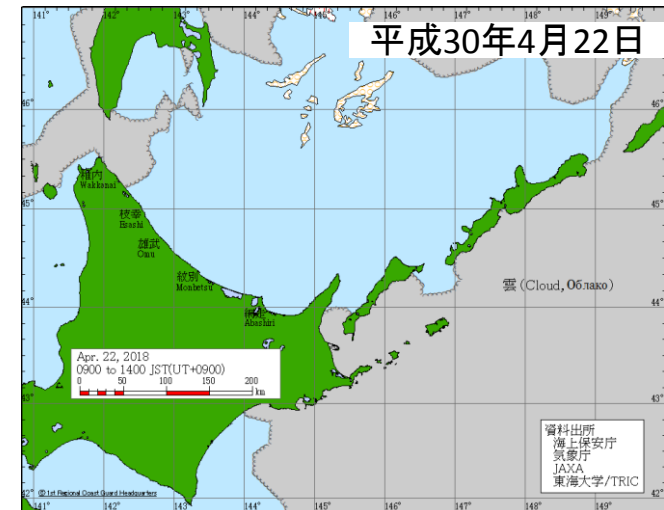
- ・3/27、網走で平年より5日早く、羅臼で平年より9日早く流水終日



平成30年4月4日



平成30年4月14日



平成30年4月22日

- ・太平洋側へ流出した海水は衰退している

- ・海水の衰退は、平年と比べて1~2週間早い

- ・4/22現在、海水は北緯45度40分(網走の沖合い約180km)付近まで衰退(北上)

(1) 流氷初日(視界内の海面に初めて流氷が現れた日)

観測点	今季	平年値	平年値との比較	前季	前季との比較	観測史上最 最早の日	観測史上最 最遅の日	参考情報
稚内	2月6日	2月14日	8日早い	1月25日	12日遅い	1月8日 (2001年)	4月5日 (2006年)	昨年に続き2年連続
紋別	2月1日	1月28日	4日遅い	1月26日	6日遅い	12月26日 (1957年)	3月21日 (1989年)	「観測なし」の年はない
網走	1月30日	1月24日	6日遅い	1月31日	1日早い	1月3日 (1967年)	2月10日 (1993年)	「観測なし」の年はない
羅臼※	2月19日	(2月7日)	(12日遅い)	2月15日	4日遅い	1月15日 (1961年)	3月25日 (2016年)	「観測なし」の年はない
根室	2月19日	2月13日	6日遅い	2月25日	6日早い	1月3日 (57.61年)	3月21日 (1993年)	昨年に続き2年連続
花咲	—	3月4日	—	3月22日	—	1月21日 (1977年)	4月7日 (1999年)	「観測なし」の年は度々あり

(2) 流氷終日(視界内の海面で流氷が最後に見えた日)

観測点	今季	平年値	平年値との比較	前季	前季との比較	観測史上最 最早の日	観測史上最 最遅の日	参考情報
稚内	2月6日	3月9日	31日早い	1月25日	12日遅い	1月23日 (1959年)	4月8日 (1965年)	「観測なし」の年は度々あり
紋別	2月26日	3月28日	31日早い	3月2日	4日早い	2月19日 (76.11年)	5月8日 (1993年)	「観測なし」の年はない
網走	3月27日	4月1日	5日早い	4月20日	25日早い	2月16日 (2006年)	5月10日 (1993年)	「観測なし」の年はない
羅臼※	3月27日	(4月5日)	(9日早い)	4月7日	(12日早い)	2月23日 (1989年)	5月13日 (65.79年)	「観測なし」の年はない
根室	2月23日	3月24日	30日早い	4月6日	43日早い	2月23日 (06.17年)	4月23日 (1965年)	「観測なし」の年は過去9回あり
花咲	—	3月20日	—	4月8日	—	2月4日 (1979年)	4月9日 (83.14年)	「観測なし」の年は度々あり

(3) 結氷初日(港内の海面が初めて結氷した日)

観測点	今季	平年値	平年値との比較	前季	前季との比較	観測史上最 最早の日	観測史上最 最遅の日	参考情報
稚内	2月1日	1月9日	23日遅い	1月13日	19日遅い	12月4日 (1993年)	2月10日 (2009年)	「観測なし」の年は過去5回目あり
紋別	1月30日	1月6日	24日早い	12月31日	30日早い	12月16日 (1992年)	2月9日 (2004年)	「観測なし」の年はない
網走	12月29日	12月28日	1日遅い	12月24日	5日遅い	12月5日 (1988年)	1月26日 (1965年)	「観測なし」の年はない
羅臼※	2月15日	(1月30日)	16日遅い	1月30日	16日遅い	12月21日 (1961年)	2月19日 (59.15年)	「観測なし」の年は過去7回目あり
根室	12月21日	12月21日	同日	12月20日	1日早い	11月30日 (1956年)	2月1日 (2004年)	「観測なし」の年はない
花咲	12月20日	1月7日	18日早い	12月26日	6日早い	12月17日 (1986年)	2月21日 (1991年)	「観測なし」の年は1993年の1回

(4) 結氷終日(港内の海面が結氷しなくなった日)

観測点	今季	平年値	平年値との比較	前季	前季との比較	観測史上最 最早の日	観測史上最 最遅の日	参考情報
稚内	2月23日	2月26日	3日早い	2月25日	2日早い	12月31日 (2002年)	4月5日 (1965年)	「観測なし」の年は過去5回あり
紋別	3月13日	3月23日	10日早い	3月18日	5日早い	2月28日 (2015年)	4月14日 (1986年)	「観測なし」の年はない
網走	3月11日	3月23日	12日早い	3月28日	17日早い	2月25日 (2010年)	4月29日 (1956年)	「観測なし」の年はない
羅臼※	2月28日	(3月11日)	11日早い	4月7日	38日早い	1月22日 (1990年)	4月24日 (1988年)	「観測なし」の年は過去7回あり
根室	3月4日	3月23日	19日早い	3月30日	26日早い	3月3日 (89.90年)	4月24日 (1965年)	「観測なし」の年はない
花咲	3月1日	3月16日	15日早い	4月2日	32日早い	2月14日 (1979年)	4月15日 (2014年)	「観測なし」の年は1993年の1回

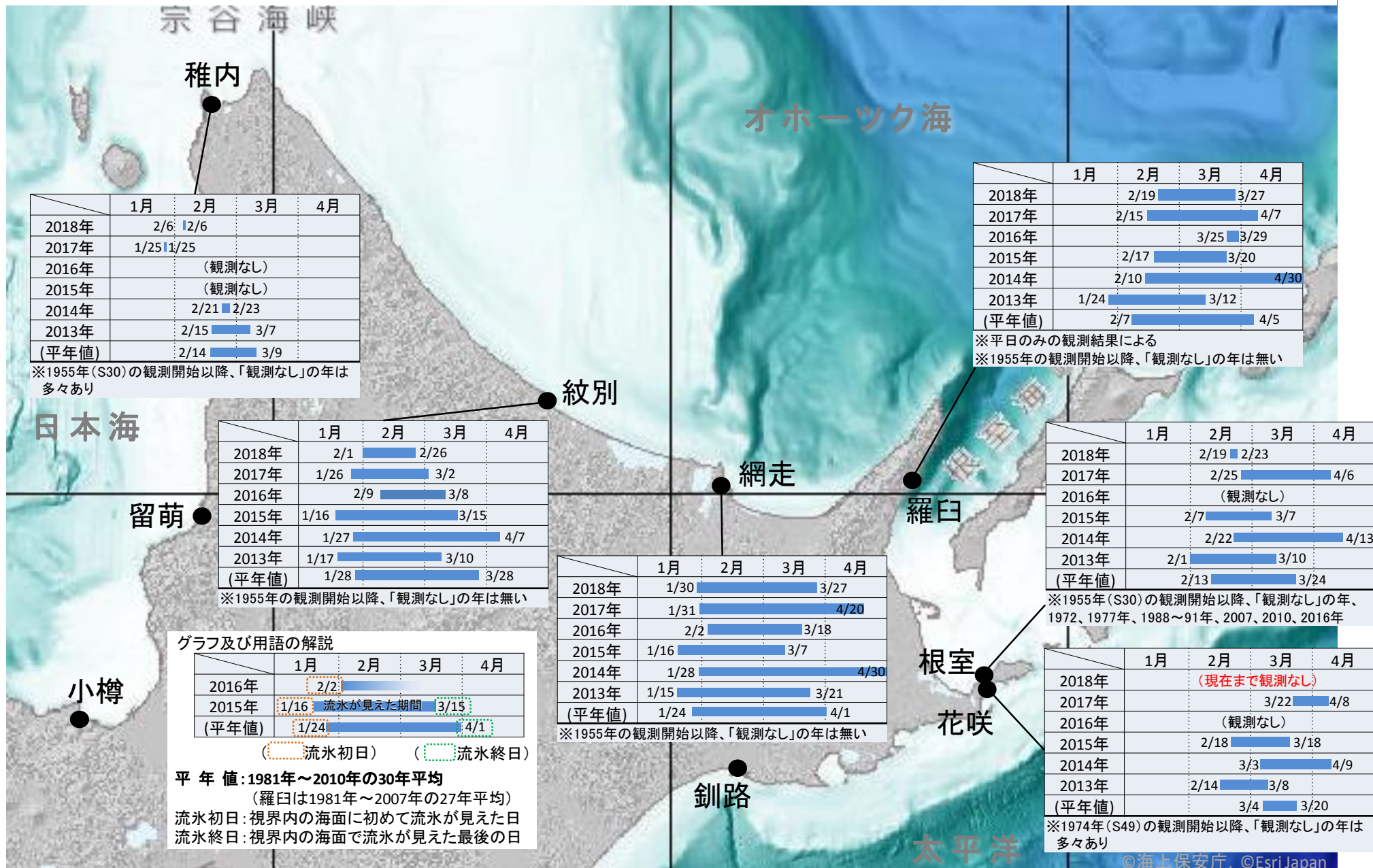
平年値は1981年～2010年(海氷年)の30ヶ年の平均値

観測史上最最早の日又は観測史上最遅の日は、観測を開始した1955年(海氷年)以降の極値

※「羅臼」は2008年から土日祝日の観測を中止した。また平年値は1981～2007年の27ヶ年の平均値

近年の海水状況(流水初日・終日)

平成30年4月24日現在



近年の海水状況(港内結氷の初日・終日)

平成30年4月24日現在

宗谷海峡

稚内

	12月	1月	2月	3月
2018年		2/1	2/23	
2017年	1/13		2/25	
2016年	12/23		2/15	
2015年	(観測なし)			
2014年	1/12		2/23	
2013年	1/18		3/7	
(平年値)	1/9		2/26	

※1955年(S30)の観測開始以降、「観測なし」の年は5回あり

オホーツク海

	12月	1月	2月	3月
2018年			2/15	2/28
2017年		1/30		4/7
2016年	(観測なし)			
2015年			2/19	2/19
2014年	(観測なし)			
2013年		1/21		3/15
(平年値)		1/30		3/11

※平日のみの観測結果による
※1955年の観測開始以降、「観測なし」の年は7回あり

日本海

留萌

	12月	1月	2月	3月
2018年		1/30		3/13
2017年	12/31			3/18
2016年	1/13			3/14
2015年		1/19		2/28
2014年	1/13			4/5
2013年	1/5			3/17
(平年値)	1/6			3/23

※1955年の観測開始以降、「観測なし」の年は無い

紋別

網走

	12月	1月	2月	3月
2018年	12/29			3/11
2017年	12/24			3/28
2016年	1/5			3/23
2015年	1/1			3/6
2014年	1/10			3/27
2013年	1/5			3/22
(平年値)	12/28			3/23

※1955年の観測開始以降、「観測なし」の年は無い

羅臼

	12月	1月	2月	3月
2018年	12/21			3/4
2017年	12/20			3/30
2016年	12/23			3/13
2015年	12/23			3/8
2014年		1/11		4/15
2013年	12/21			3/26
(平年値)	12/21			3/23

※1955年(S30)の観測開始以降、「観測なし」の年は無い

小樽

グラフ及び用語の解説

	12月	1月	2月	3月
2017年		1/2		
2016年		1/12		3/6
(平年値)		1/6		3/23

() 港内結氷初日 () 港内結氷終日

平年値: 1981年~2010年の30年平均

(羅臼は1981年~2007年の27年平均)

港内結氷初日: 港内で初めて新成氷が生じた日

港内結氷終日: 港内で定着氷、新成氷が見られた最後の日

根室

花咲

	12月	1月	2月	3月
2018年	12/20			3/1
2017年	12/26			4/2
2016年	1/2			3/22
2015年	1/3			3/17
2014年	1/11			4/15
2013年	12/29			3/20
(平年値)	1/7			3/16

※1974年(S49)の観測開始以降、「観測なし」の年は1993年の1回

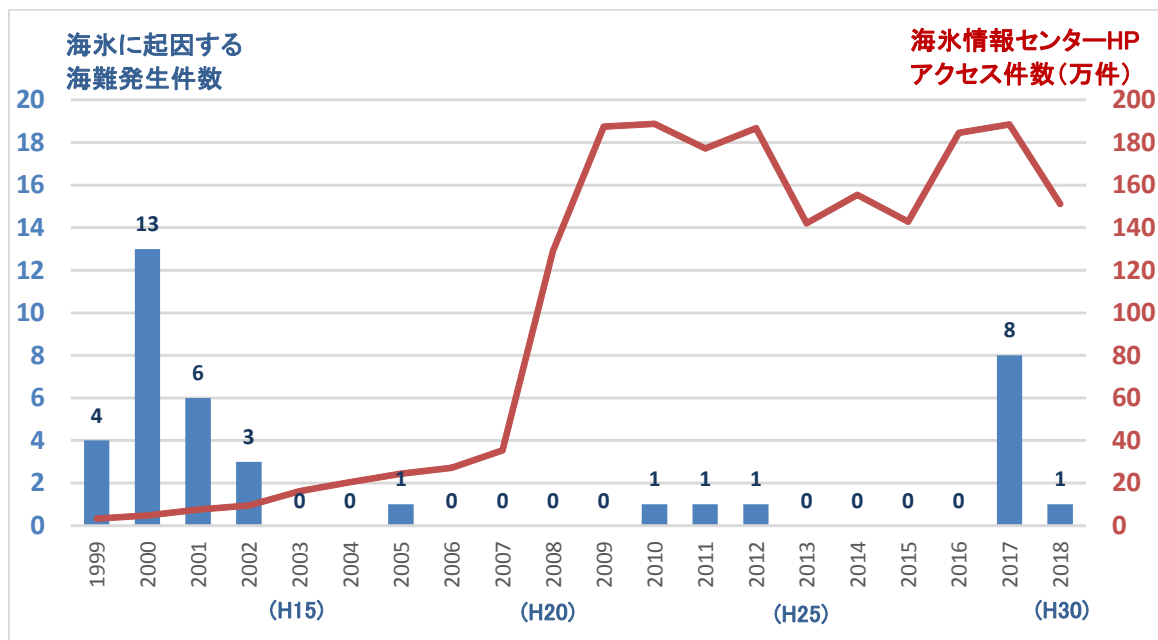
釧路

太平洋

近年の海氷に起因する海難発生状況

1. 過去20年間の海氷に起因する海難発生件数の推移

(海氷情報センターホームページアクセス件数を重畳、H30は4/22までの件数)



2. 海氷に起因する主な海難の概要 (2000年以降)

年月	発生場所	海難の概要
平成12年 (2000年) 1月	枝幸沖合	枝幸沖合いを航行中のロシア貨物船7隻が、流氷に閉ざされ航行不能となった。同7隻は、巡視船の砕氷誘導により救助され、船体、人命に異常はなかった。
平成12年 (2000年) 3月	歯舞漁港付近	歯舞漁港に寄港中の漁船(12トン、6名乗組み)が、流氷帯を避けながら航行している際、暗礁に乗揚げた。その際に前部甲板で見張りをしていた甲板員1名が海中転落し、翌日遺体で発見された。乗揚げた船体は解体撤去された。
平成22年 (2010年) 1月	国後島案渡移矢岬 西北西方約10海里	根室海峡周辺の高氷域において操業中の刺し網漁船(19トン、8名乗組み)が、海氷との接触で船底に生じた破口から機関室に浸水した。同漁船は付近で操業中の僚船及び巡視船の支援を受けて排水作業を行いつつ自力帰港した。
平成23年 (2011年) 2月	羅臼港沖	羅臼沖において帰港中の刺し網漁船(19トン、6名乗組み)が海氷に閉じ込められ航行不能となった。僚船からの通報を受けた巡視船が、漁船の自力航行が可能となるように水路を開きながら安全な水域まで先導し救助を行った。
平成24年 (2012年) 2月	宗谷岬東方 約12海里	宗谷岬沖を航行していた外国船籍貨物船(48トン、7名乗組み)が、点在する海氷の塊を避けきれずにその内の1つと衝突。衝突箇所へ亀裂が生じ浸水したが、乗組員が排水作業を行いつつ自力で稚内港に入港した。
平成29年 (2017年) 3月	羅臼港沖	羅臼沖において漁場向け航行中の漁船8隻が海氷に閉じ込められ航行不能となった。僚船からの通報を受けた巡視船が、漁船の自力航行が可能となるように水路を開きながら安全な水域まで先導し救助を行った。
平成30年 (2018年) 2月	紋別沖	稚内港からロシアコルサコフ向け航行中のタンザニア隻貨物船(497トン、28名乗組み)が、流氷に囲まれ、開放水面に向かうため前後進を繰り返して回頭していたところ、後進した際に流氷に船尾部が衝突し操舵不能となった。 巡視船そうやにより稚内港まで曳航し救助した。